

【背景】血管内治療後の正確な止血は手技を完結するために重要である。特に総大腿動脈穿刺は止血に難渋する症例も多く、しばしば重篤な合併症を起こす。術後安静も長時間必要とし、これに伴う問題も多く存在する。過去いくつかの止血デバイスが使用可能であったが、血管内に異物が残る、感染の危険性が高い、手技が煩雑等の理由で当院では使用してこなかった。今回 Cordis 社製エクソシールの使用可能となった。同デバイスは血管内に異物を残すことなく止血が可能であり、感染のリスクも低く、吸収も早く短期間で再穿刺可能という特徴がある。【目的】止血デバイスであるエクソシールの安全性と有用性を検討する。【方法】2013年4月から5月末まで、冠動脈および末梢血管内治療を6Fr以上で行いエクソシールを用いて止血した連続60例を検討した。患者背景、止血手技の成功率、安静時間、感染症の有無、術後止血部初期成績等を評価した。【結果】患者背景：平均年齢71歳、男女比3:1。冠動脈治療13例、末梢動脈治療は47例であり透析患者は12例、石灰化患者も36例を認めた。また両側同時穿刺も5例、順行穿刺も3例であった。止血手技成功率：95%術後安静：1例は再出血を認め再度4時間の圧迫を要した。術後感染症発症率：0%短期成績：穿刺部再閉塞・狭窄・解離形成：0%【考察】極めて石灰化の強い透析症例においても手技は問題なく行え、安静時間も短縮することが出来た。感染症・術後止血部トラブルも認めておらず極めて有用な止血デバイスであると考えられる。

評価1	評価2	評価3	採否
発表日時 月 日 (第 日)	セッション	会場	時 分～ 時 分

受付番号

演題番号